

技術・実践

入院中からの父親の育児練習が母親の感情にもたらす変化
～第1子が早産児でNCUに入院した両親への看護介入の1事例～

盛岡赤十字病院 産科病棟

佐々木 要

はじめに

現在、新生児治療室（以下NCU）では母親へのマザリング（保育練習）を行っている。母親から父親と児の関わりを望む声が多くあり、父親と児の関わりは母親にとって精神的安定を得られる重要な支援だと感じている。しかしNCUで面会制限から、児と父親が関わる時間は限られてしまう。児の入院によって阻害される父親と児の関わりを少しでも増やす支援は、父親としての自覚を築いていく過程において重要であり、父親が児に興味、関心を抱くことに繋がる。また、草野は「児の入院中は母親の自立度を判断し、育児行為の積極的移譲を行う。夫のサポートが母親の情緒に影響しているため、夫の育児参加が望まれる」¹⁾と述べている。父親の関わりは母親の肯定的な感情へと変化させる一つの要因とされており、父親と児の関わりは母親へ影響している。

今回、NCUに児が入院した父親の育児参加をきっかけに、父親と児の関わる機会を増やす援助を行ったことで、母親の精神的安定が得られたので報告する。

I. 研究目的

NCUに児が入院した父親に育児練習を行うことで、母親の精神的安定を図ることを目的とし事例研究を行った。

II. 研究方法

1. 研究対象

第1子が早産児でNCUに入院し、マザリングを行う児の両親

2. 研究期間

平成27年8月～9月

3. 研究方法

1) 事例研究

- ①児がNCUに入院した時点から、両親の言動や表情、NCUで使用している交換ノート（児の状態をスタッフが記載し、母親の思いを記載出来るノート）の記載内容を確認し記録に残す。父親の面会時に積極的に児のタッチングを促し、児と関われるように声をかける。
- ②父親への育児参加の意思を確認し、NCUで使用しているマザリング共有用紙追記時に母親が父親に行って欲しい育児の確認をする。また、父親が希望している育児についても母親に確認する。
- ③父親の都合を確認し、父親の育児練習の計画を立て実際に行ってもらい、父親の育児参加中の父親・母親の様子を看護記録に残す。
- ④父親の育児参加後にインタビューガイドにそって、母親へ半構成的面接を行う。
- ⑤児の退院後、電話訪問または母乳育児外来で、退院後の父親の児と関わり方の様子について母親に確認をする。また、母親の言動についても観察する。

- ⑥面接結果をふまえて、入院時からの父親と児の関わりが母親にもたらす感情の変化について分析・考察する。

Ⅲ. 倫理的配慮

対象者には研究目的・面接内容について、説明した上で同意を得た。また、研究者の所属施設の倫理審査委員会で承認を得た。

Ⅳ. 事例紹介

1. 家族背景

父Aさん30代職業 母Bさん20代初産

2. 妊娠経過

妊娠高血圧症候群（以下、PIH）にて妊娠31週に入院。降圧薬内服するが、血圧コントロール不良。PIH増悪にて妊娠34週帝王切開となる。

3. 産褥経過

問題なし。母乳分泌良好。EPDS 4点。

4. 児の経過

男児、低出生体重児。Ap良好。出生後、人工呼吸器装着。生後2日目抜管し酸素投与しながら保育器収容。酸素中止後も経口哺乳・体重増加順調にて生後33日目、自宅退院。

V. 結 果

1. 入院時の両親の様子

児の入院が決定した際、父親は落ちついた様子で児の病状説明を聞き児と面会。人工呼吸器装着中であったため、手足のタッチングすすめ、緊張した様子で児に触れていた。母親は帝王切開のため離床後、翌日に児と面会。母親は、児に面会すると涙をながしながら「がんばっているね。がんばっているね。」と声をかけ何度も児へ触れていた。

2. 父親の育児参加の計画と実際・母親の様子
保育器収容中から児と関わりを持ってもらえるように、育児行動の見学や抱っこを父親に実施してもらった。コット移床後は、実際に父親の育児練習を実施。父親の育児参加の計画、父親の育児参加の様子、母親の様子の具体的な内容について表1に示す。

3. 児の退院時、母親に対し父親の育児参加後のインタビューを表2に示す。

4. 母乳育児外来に来院時の母親の様子

直接母乳のみで、児の体重増加良好。退院後は父親の意向通り、親子3人同室で過ごしている。父親は児を抱っこし、仕事が早く終わった時には児の沐浴・オムツ交換を行っている。「とにかく、かわいがっています」と母親は笑顔で話していた。夜間に児が泣いた時は、起きることはないが母親へ声をかけてくれると、母親は話してくれた。

表1 父親の育児参加の様子と母親の様子

計 画	父親の育児参加の様子	母親の様子
*出生直後～生後2日目 児は人工呼吸器装着中のため、児の手足へのタッチングをすすめる。	緊張した様子で、児の手足を軽く触れている。	児の手足に触れながら、涙を流している。
*生後3日目 児は保育器収容中。児の啼泣時にホールディング方法を伝える。オムツ交換見学。	父親は両手で児の頭とお尻を軽く触れている。 オムツ交換の際には「すごい動いていますね。オムツ交換出来るかな。難しそうですね。」と発言あり。	母親は嬉しそうに、しっかりと児の身体を包み込むようにホールディングを行う。

計 画	父親の育児参加の様子	母親の様子
*生後5日目～6日目 児は経口哺乳開始。また、哺乳の様子を見学。	父親は仕事のため、面会に来れず。	「口から飲んでる。すごい。すごい。」 自らすすんでタッチング行っている。
*生後7日目 母親に父親に行って欲しい育児、父親へ育児参加の意思を確認する。	「是非。やらせていただきたいです。出来ることは何でもやりたいです。」	「育児全般ですね。なんでもやって欲しい。オムツ交換とか、ミルクとか。なんでも」
*生後8日目 保育器収容中からオムツ交換・瓶哺乳・排気など哺乳の一連の流れを見学。	「今後のために見て覚えます」と、スタッフや母親の育児手技を真剣に見学している。	父親の言動にはほほ笑み、育児練習を行う。
*生後9日目 保育器収容中だが、児の状態が落ちついており、医師の許可のもと父に抱っこを行ってもらう。	「緊張するな。かわいいですね。思ったより重いです」父親は、額にびっしりと汗をかいて児を抱っこしている。	ビデオ撮影しながら笑顔あり。 翌日には交換ノートへ「パパが来て、初めて抱っこしました！！パパいわく、二人で通じあっていたらしいけど・・・。〇〇くん（児の名前）もパパに抱っこされてとっても嬉しそうでした。」と記載あり。
*生後11日目 何度かオムツ交換を見学されていたので、スタッフが父親にオムツ交換の希望を確認。	「ちょっとまだ小さくて、出来なさそうです。もうちょっと、見て覚えます。」	父親の代わりにオムツ交換を行う。 児に対し、「また、今度ね」と話している。
*生後18日目 育児練習実施 ・瓶哺乳 ・排気 ・オムツ交換	緊張している様子あり。児へ声をかけながら丁寧に育児練習している。実施後、「見ているのと、実際にやってみると全然違いました。緊張したけど楽しかったです。また、やってみたい。来週も来たい。」と笑顔あり。	ビデオ撮影したり父親へのアドバイスを 行ったり笑顔が見られる。
*生後23日目	母親の乳房ケアの間には、児を父親が抱っこしている。	乳房ケアを終えて父親が児をずっと抱っこしていた姿をみると笑顔が見られる。
*生後33日目 ・沐浴の実施	2日間連続での沐浴希望あり実施。「色々教えてもらったので、家に帰ってからも頑張りたいと思います」と発言あり。	父親の沐浴中には、助言を行いながら、父親の汗を拭いたり、児に声をかけたりしている。

表2 父親の育児参加後の母親へのインタビュー内容

質 問 内 容	回 答
・退院おめでとうございます。 赤ちゃんが入院してから今日まで、赤ちゃんそして何よりママはとてもがんばりましたね。これまでの入院中を振り返ってどのように感じていますか？	お腹に入れてあげられなかったことを、すごく責めました。搾乳も部屋でやっていたし、他の赤ちゃんが泣くのを聞くのも嫌で悲しくなりました。でも、日に日に良くなっていくこの子を見ていたりしたら、これじゃいけなくて思ってた前向きになれました。旦那に毎日、電話で色々なことを報告出来たし、写真も送ってとすごく言われたので。
・パパと赤ちゃんに関する会話は最近ありましたか？	ありました。家に帰ってきたら、旦那は仕事があるから部屋は別々にしようと思っていたけど、さみしいから一緒に部屋にしたいって言うていました。

質 問 内 容	回 答
・ パパは先日の育児参加についてどのように話していましたか？ また、どのように感じていると思いますか？	プロに教えてもらって家に帰ってからもやりたいって言っていました。 最初はまだ、小さくて怖かったって言っていたけど、やっているのをみて次はやろうって思ったみたいです。やってみたら、嬉しそうにしていました。 やりたがりだから、家に帰っても何でもやりたいと思っていると思います。
・ パパが退院後に赤ちゃんにしてあげたいことなど話していましたか？	はい。オムツ交換もだし、沐浴も入れたいって。後は、まだまだ先の話にはなと思うんですけど、一緒に遊びたいって今からすごく楽しみにしているみたいです。
・ パパに育児参加してもらって、どのように感じましたか？	正直、心強かったです。妊娠中から、「俺は育メンになるって」宣言していて。私の買った育児書も読んでいるタイプでした。でも、その気持ちが嬉しかった。ここ（NCU）に、入院になって他の家族を見ていたらあんまりパパが赤ちゃんのお世話とか来てなかったですね。三つ子の家は来ていたけど。私たちだけ色々やらせてもらっていいのかなって思った。でも、すごくうれしかった。旦那は色々やりたいって言っていたし、私も旦那がこの子を可愛がっているのを見ると嬉しかった。辛かったこともたくさんあったけど、この子の成長が嬉しかった。

VI. 考 察

児は入院直後から人工呼吸器を使用しなければならない危機的状況であった。父親は、取り乱す様子はなかったが、面会時、遠慮がちに児に触れていた。妊娠中から、父親は育児参加に意欲的であったが、児がNCU入院し人工呼吸器使用という状態で児と対面する中で、少なからず児に対するネガティブな感情があったことがうかがえる。関守は「NICUに入院する早産児の父親は、驚き、不安、恐怖といったネガティブな感情を抱き、父親としての実感を得にくい。しかし、ネガティブな感情を感じつつも、児との関わりを続けることで、父親にとってわが子という認識が生じ、父親になった自分という自覚が強化される」²⁾としている。しかし、父親のネガティブな感情の中でも、児に触れる機会を増やし関わりをもってもらうように援助した結果、児が危機的状況から脱したあとには、「(自分にも)オムツ交換出来るかな。難しそうですね」といった言葉が聞かれるようになった。この言葉から、いずれ自分自身が児のお世話を行いたいという意思や児と関わりたいと思っているという表現に感

じられた。そのため、保育器収容中の早期から育児手技の見学や抱っこ、出来る範囲で児と関われるように援助を行った。これらの援助は、父親の児へ対するネガティブな感情を軽減しただけではなく、父親が児と関わりたいと考えていた気持ちに沿った援助に繋がったのではないかと考える。その結果、母親の乳房ケアの間は児を抱っこする場面や、退院時には父親自ら進んで沐浴を2日間実施し、児へ積極的に関わろうとする行動が見られた。また、児に関わろうとする父親の行動に対して、母親は笑顔がみられ、喜んでいる様子が見受けられた。垣口らは「夫の積極的な児への関わり、児への愛情表現は児に対する心配や不安を2人で分かちあい、乗り越えられるという安心感につながる」³⁾と述べている。児がNCUに入院した父親に、児との関わりがもてるように育児練習という手段で積極的に関わりを持ったことで、父親の児への関わり、興味や関心が増したと考える。また、児の父親である夫が、父親として母親と一緒に児を見守っていく姿勢であり、父親が児への愛情を示したことで母親の安心感が得られたと考える。

母親は、父親が児と関われるように実施した育児参加について喜んでおり、その支援は医療従事者と

母親の信頼関係を深め、更なる母親の精神的な安定や安心感に繋がった。そのため、両親が望むのであれば父親にも積極的に児と関わってもらえるような場を提供していく必要がある。

NCUスタッフが児と父親が関わりを持てるように配慮することで、母親の気持ちに安心感を与えるだけでなく、児の入院という形で始まった家族の始まりが、少しでもスムーズな形で家族形成を行っていける要因となったと考える。面会の様子などからも、両親が児の成長と一緒に喜ぶ姿がみられ、母親はもちろん父親も児への愛情が増していることが感じられた。自宅に帰ってから父親は児と同じ部屋で過ごすことを望み、退院後も児との関わりを密に持とうとする意思が確認できた。母親は退院時に父親の存在について心強いと話しており、父親を含めた支援をすることで、家族としての形が児の入院中から円滑に形成され、退院後の状況からもスムーズな家族形成の促進がなされたと考える。

3) 垣口 恵美 他：NICUに入院経験のある低出生体重児の母親が肯定的な感情を抱くきっかけ
母性衛生 Vol.53 No.3 P285 2012

Ⅶ. 結 論

- 1) 父親が育児参加することは、児への愛情表現となり、母親へ安心感を与える。
- 2) 医療従事者の父親に対する育児支援は、母親との信頼関係を深める。
- 3) 児が入院中であっても父親を含めた支援をすることは、円滑な家族形成の一助となる。

(本論文の要旨は平成28年11月26日 第49回岩手県母性衛生学会で発表した)

文 献

- 1) 草野 淳子：NICUに入院した子どもの母親の愛着性のプロセスと看護介入に関する国内文献レビュー 母性衛生 Vol.55 No.2 P502 2014
- 2) 関森みゆき：NICUにおいて早産児の父親が育むわが子との関連性 日本新生児看護学会誌 13 (1) . 2-7. 2006